



福祉と住環境を考える

ふくてっく

559-0034 大阪市住之江区南港北 2-1-10 ATC・ITM 棟 5階 J-5-4
 TEL 06-6614-6800
 mail@fukutech.sakura.ne.jp http://fukutech.sakura.ne.jp/

2019年12月
 第97号

特定非営利活動法人

ふくてっく

～NPO法人 ふくてっく 総会報告～

新元号『令和』が始まり、『即位の礼』『大嘗祭』と令和元年後半は祭事が続きましたが、スポーツ界では野球プレミア12で世界一になり、そして今年一番の盛り上がりは何と言ってもラグビーワールドカップのベスト8初進出ですが、どちらもチームプレーで丸となる『ONE TEAM』が脚光を浴びました。

ふくてっくも『ONE TEAM』で取組まなければならないほど、30年度は充実した活動となり大変喜ばしい限りです。年々増加する3部会の活動に対して会員の活動機会も増すばかりですが、予定を調整し、やりくりしながら活動する会員は、どの活動にも手を抜く事なく『全力』で取組んでおり、その姿勢が活動結果や成果に現れてきました。丁寧な活動を知り、紹介やネットワークを活かしての新規活動依頼が徐々に増え、これまでの継続活動につながっています。

これからも取組姿勢を変えず、どの活動にも『全力』で関わりながら、楽しく社会貢献、役割を担う活動をふくてっくは続けて行きます。

ここからは総会での内容報告です。

事務局からの定例会報告では、外部講師を招いて開催した学習会で7名の講師から興味ある話題が聴けたのですが、更に嬉しい事に、その内の講師3名がふくてっくの会員になり、活動への協力と貴重な意見を頂ける仲間になりました。

次に前向きな3部会からの報告です。

【ふくてっくのつどい】からは、年度内過去最高の8回の木工活動の実施報告があり、その内3回が新規の活動、5回が継続の活動とバランスよく1年を通して活動出来ました。収支は相変わらず赤字となっていますが、いろいろな環境の子ども達、地域の人々を笑顔に出来る活動と受け止め、これからも継続していきます。次年度の活動については年間8回の活動をベースに、継続している活動に加え、新規活動にもアプローチしていきます。また【ふくてっくのつどい】のもう一つの役割である“会員交流”については、2回開催しましたが、もう少し増やしたいという願いがあります。

次に【東大阪部会】からは、行政からの委託事業なので活動根幹の適正化検証については毎年大きな変化はないものの、それ以外の活動が増えてきました。大阪市のタイアップ事業や出前講座等、外部に出向き積極的な活動をすることで、各区への関わりも増えてきました。部内検討会も毎月行われ、会員の共有認識に努める事は怠っていません。次年度についてもこれまでと変わらず『利用者ファースト』の考えを基に適正化検証に関わり、その他活動についても積極的な活動を進めていきます。

次に【こむねっと部会】からは、専ら第三者評価の活動が活発で5件の評価調査を実施しました。一つひとつの案件に対して、その都度、受審目的を丹念にくみ取り、そのそれぞれにふくてっくならではの創意工夫を凝らしてきました。受注を進めながらも内部の改革も進め、評価体制については調いつつあります。『りすくのつく』については、まだ具体的な動きは無いですが明るい兆しは見え始めています。次年度の活動については既に計画だけで当年を上回る第三者評価の予定が入っており、更に多忙な事が想像されますが、ふくてっくの特性である丁寧な評価手法を堅持して評価機関としての高い質をさらに追及していきます。

次に決算報告です。

当年予算では赤字でしたが、結果は黒字決算となりました。前に報告した3部会で充実した活動を実施し、なお利益をあげている事は、事務局がしっかり頑張ってくれている効果だと思えます。ただこの黒字も純粋な収益というよりは活動が実施できず予算が残ったという形であり、しっかり活動を実行することが課題ともなっています。次年度の予算計画も報告されましたが、是非、計画活動を実施したうえで、良い決算報告をしたいと思えます。

その他、役員改選として新たに2名新理事を加え、新たな体制でスタートします。そして最後にふくてっく事務所移転(11階から5階)に伴う法人住所変更も報告され、総会は無事閉会しました。

毎年、大きな問題もなく総会が開催出来ているのも会員みんなの協力があった事で、これからもふくてっくは『ONE TEAM』で活動を続けていきます。(小川 忠雄)



生國魂神社

画：中北 清

7月定例会

日本の道百選 城之門筋「富田林寺内町」町並み見学・ぶらり歩き

梅雨の晴れ間に恵まれた7月6日(土)、午後1時15分に近鉄富田林駅前に集合、出席者一同は「富田林じないまち交流館」に移動の後、交流館2F和室大広間にて1時30分より定例会を開催。「じないまち」見学を前に一同はわくわくしながらも定例会司会担当の川北会員の進行により、いつも通り各部会活動報告及び緒連絡等を終えました。次にメインプログラムの「じないまち」見学について、ガイドさんより、町の歴史や文化また、見どころなど興味深い講和を受けることが出来ました。

さて、ここでその「富田林寺内町」のご案内。
富田林寺内町は永禄(1558~69)初年頃、興正寺の門跡証秀上人が、富田の荒芝地を銭百貫文で所得し、近くの4ヶ村の庄屋株各二人計8名に興正寺別院の建立と畑屋敷、町割(都市計画)などの建設整備を要請したのが始まりとされています。

町は南北6筋、東西7町の道路で整然と区画、下水路を完備、周囲には竹藪のある土居をめぐらし外部からの出入りは一理山口、山中田坂、向田坂、西口の4ヶ所に限られ、早くから自治的都市特権を得て、町政の運営には年寄役となった8人があたりました。ここは東高野街道、富田林街道などが交わる交通の要衝であり、石川流域で収穫される米、綿、採種などの農作物と良質の水にめぐまれたことから、近世以降南河内一の商業地として発展しました。酒造をはじめ米屋、布屋、紺屋、鍛冶屋、樽屋、油屋、大工など多くの商人・職員のいたことが記録に残されています。

今も、戦国時代の町割を留め、江戸時代以降の町屋(まちや)旧杉山家住宅、仲村家住宅など約40軒が時代劇のセットさながらに昔の姿そのまま残されているとともに、町そのものが日本の優れた文化遺産として平成9年10月、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

いよいよ、先ほどの講和の余韻さめやらぬ中、ガイドさんの案内で町歩きへ。ここでは町並みの表情に見る知恵につい



て、住宅では「虫籠窓」「煙出し」や「雨蓋瓦」など、町筋の道と道は「あてまげ」という半間ほど道をずらし見通しを妨げる工夫をされていることなど、現場に佇み、実際に見ながら丁寧な説明を受けました。

ガイドさんの軽妙な話しぶりに引き込まれ、なるほどなるほどと感心しながら歩を進めている内、楽しい見学・ぶらり歩きは終了し、のどの渇きもピークになった頃、「じないまち」を背に富田林駅近くの居酒屋へ。一同揃ってジョッキ片手にカンパイ！どこへ行っても変わらない締めくくり。面白く有意義な郊外開催でした。

あとになりましたが、今回の定例会の会場を提供いただいた「じないまち交流館」の皆様には大変親切に応じいただき誠にありがとうございました。また、分かりやすく親しみあるガイドをいただいた中野様へ心より感謝いたします。

今回、出席出来なかった会員の皆さん、是非一度、訪れて見て下さい。ノスタルジックな街並みに触れ、きっと新しい発見があることでしょう。

(池端 一義)



10月定例会

あゆむ保育園・エイブリー製作所 見学

ふくてっくは、毎月第1土曜日に定例会を行っていますが10月はお出かけ定例会となりました。場所は阿倍野区西田辺の(社福)大阪重症心身障害児者を支える会の新しい施設『エイブリー製作所』です。

東大阪部会、こむねっと部会、つどいの活動報告を終えて、施設を見学させていただきました。案内は、設計者でふくてっくメンバーの中北会員です。1階に重症心身障害児者の生活介護事業所、2階は0歳～2歳で定員12名の小規模保育園の建物です。

晴れた日にはお散歩ができる広い屋上から見学が始まりました。2階の小規模保育園は、活動状況により部屋の広さを変えることが可動間仕切りがあったり、トイレには小さな便器が並んでいたり、沐浴スペースや給食配膳スペース、壁面収納などいろいろと工夫されていました。

1階の生活介護事業所は、地盤面からの床高さをおさえ、車いす移動をスムーズに行うために基礎部分の室内側の仕上げ方法に一工夫されていたり、下駄箱にも掃除手間を省くための工夫がありました。右の写真の丸柱が大黒柱のように印象的でした。腰壁に使われた無垢材の香や、落ち着いた色合いの空間を堪能させていただきました。

春になれば生活介護の利用者と子どもたちの笑顔あふれる『エイブリー製作所』活動開始です！ (曾我部 千鶴美)

『エイブリー製作所』
木造 2階建て
延床面積 363.54 m²
準耐火建築物
施工：池田邦工務店
設計：中北建築事務所



りすくのっく ～あなたの住まいは大丈夫？～

1995年阪神淡路大震災をきっかけに、被災した障害者を支援する団体として発足された特定非営利活動法人ゆめかぜ基金とふくてっくのコラボで3年前から始まりましたりすくのっくの取組みをご紹介します。きっかけは、「自宅にいて地震に遭遇した時、家具などの下敷きになって死にたくないよな」というゆめかぜ基金の牧口氏の一言からでした。それならば家づくりの専門家として一緒に考えようということになり、2か月に一度のペースで会議を重ねました。

まず、私たちの取組みを理解してもらうために右下のチラシをつくり、会議や研修会などいろいろなところで配布させていただきました。あなたの住まいは大丈夫？と尋ねても、大丈夫のレベルは人それぞれです。大きな工事をしなくても、家具の位置を少し変えたり転倒防止の工夫をしたり、収納方法を変えるだけで大切な命を守ることができます。そのためにご自宅を訪問させていただいて災害時大丈夫かなということを確認させていただきたいのです。(曾我部 千鶴美)

住まいの相談・改善の流れは、事務局に問い合わせさせていただき、訪問日を調整してご自宅に建築士複数名で訪問調査を行い、後日、改善提案をさせていただきます。もちろん大がかりな建築工事の相談もお受けできます。相談は無料ですが、トレードセンター前駅からの交通費をいただきます。お気軽にご相談ください。お待ちしております。

『さあ、住まいの“りすく”を“のっく(点検)”しましょう』

りすくのっく事務局
特定非営利活動法人ゆめ風基金 担当/長崎
TEL 06-6324-7702
FAX 06-6321-5662



あなたの住まいは大丈夫？

『さあ、住まい“りすく”を“のっく(点検)”しましょう！』

住まいの相談・改善の流れ

お問い合わせ

訪問調査

改善提案

りすくのっく 点検

受付 相談 訪問 提案 対応 作業 完了

TEL 06-6324-7702
FAX 06-6321-5662

お見積りにご相談ください。無料相談は無料です。

りすくのっく事務局

〒595-8501 大阪府阿倍野区西田辺1-1-1
TEL 06-6324-7702
FAX 06-6321-5662

住所 氏名 性別
電話番号
メールアドレス
お問い合わせ内容
ご住所
〒

※この申込書は、りすくのっく事務局(ふくてっく)からのご連絡のみに有効です。申込書に添付する写真等は、事務局が保持いたします。

こむねつと部会

～「自閉症学のすすめ」を読んで～

標題の書物を読みました。私の本業である建築設計においても、そして近年にわかに忙しくなった福祉サービス第三者評価においても、この課題は、その当事者問題としても、またその反面である社会問題としても、深く、幅広い関心事でありました。もちろん支援の現場からの様々なエピソードに基づく報告には、文献であれ、口述であれ多く触れる機会がありましたが、それぞれ断片的で私の頭の中で無秩序な本棚のように積み重なっているばかりでした。ところが、この書物は心理学・精神病理学・哲学・文化人類学・社会学・法律・文学・生物学・認知科学、それぞれの視点で各専門家が自閉症を眺め語るという趣旨でまとめられています。おかげで、これまで乱雑に詰め込まれていた本棚に、インデックスがついて、とても明確な知に近づくことができました。まるで、頭の入り口で騒がしく主張しあっていた“知群”が、隊列をなして整然と頭に入ってくる思いです。

その全容をご紹介するにはあまりに膨大ですが、本稿では、第2章「精神病理学」から、私の狭小な思考回路を大きく揺さぶったキーワードのいくつかを紹介します。

その意味するところを解説する力には私にはありませんので、関心ある方は、是非原文をお読みください。ミネルヴァ書房から発刊されている書物です。

■ 自閉症(自閉症スペクトラム障害)は、「社会的コミュニケーションおよび対人的相互反応における持続的な欠陥」や「行動、興味、または活動の限定された反復的な様式」を呈するものとして定義される。

■ 自閉症の子どもたちは、他者から見つめられたり、抱き上げられたりすること(他者から「触発」されること)に対してほとんど反応しない(目が合わない)。

■ 常同性と一語文(言葉を分節化して使うことができず、ある言葉はそれがはじめて使われた特定の「この場面」や「この状況」に一对一に対応する)＝閉鎖路現象。つまり、自閉症者は、入力された刺激を「原料のまま」に再生することに専念しており、その「原料」を混ぜ合わせて新しい「化合物」を創ることがない。

■ まとまらない時間(タイムスリップ現象)会話の中で話が突然に過去のことに移行してしまう。つまり過去のことが、今現在最もリアルなものとして感じられている。

タイムスリップ現象の特徴 ①もともと優れた記憶能力をもつ。 ②感情的な体験が引き金となり、過去の同様の体験が想起される。 ③その過去の体験をあたかも現在の、もしくはつい最近の体験であるかのように扱う。 ④その体験記憶は、普通児において一般に想起することができない年齢(本人の言語開始前後の年齢まで)のものまで含まれる。

■ 「遠く」から「近く」へと向かって物を拡大縮小するようなパースラインをうまくひくことが難しい、つまり奥行を理解しにくい。

■ 点の集まりとしての諸々の出来事が並列する時間(まるで巨大なデータベースのように蓄積される記憶)の中で生きている。つまり自閉症者の記憶は、抽象化・一般化がされておらず、一つひとつの記憶が生のまま(原形のまま)保存されている。

■ 触発とパニック。自閉症者が、他者から自分に向けられた志向性をシャットアウトするのは、もし他者が自分の世

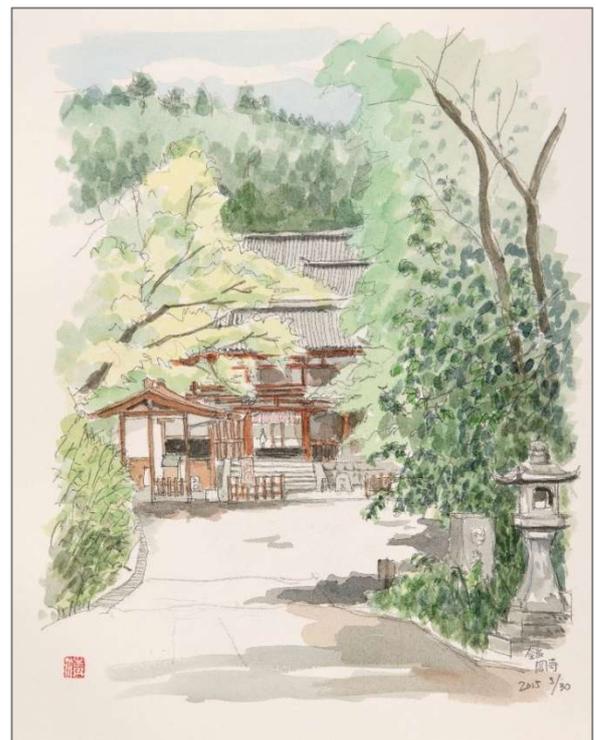
界に侵入してきたとしたら、世界の破滅に相当するようなことでもないことが起こってしまうと感じている。それゆえパニックに陥っている。自閉者が「他者の存在に気づかない」ことと「不意に他者が現れたときにパニックを起こす」ことは同じコインの表と裏なのである。

■ ブラックホール(欠如と穴)。定型発達は「現前」と「不在」という二項対立によって認識しているが、自閉症者にとっては、このように「何かがなくなった」という体験を象徴化することが難しく、「不在」に遭遇したとき、その欠如は底なしの「ブラックホール」として体験され、それは彼自身の身体における「落下」として感覚される。

■ 精神分析は非常に評判が悪いのだが、それは、精神分析家たちが自閉症の原因を母親の子育てに帰している、とされてきたからである。しかし、現代の精神分析家たちはそのような単純な理論はすでに乗り越えている。

以上、精神病理学の一端を羅列しましたが、誤解があつてはいけなないので、政治学から見た自閉症に関する記述を補足します。

■ 人間関係が異常なくらい強調される時代に、人の気持ちを讀みとって、それを巧みに、自分の利益に持ち込むということができない人がいる。それは必ずしも病気ではなく、障害でもなく・・・(中略)・・・モノを作ることが中心の時代においては特に問題にならなかったのに、感情を売り、対人関係を処理することで利益を上げる社会では、対人関係の作り方が少数派の流儀であれば、著しく不利になる。ここで重要なのは、少数派を多数派に同化させることでなく、また少数派だけで世界を作らせることでなく、また少数派の権利を守るだけで必要だと考えることでない。少数派と多数派がどのように共存ができるかということを考えるべきなのである。(中北 清)



岡寺(奈良県高市郡明日香村) 画:中北 清

東大阪部会

～夏の研修会ラッシュ～

《令和元年東大阪市介護保険住宅改修施工業者登録制度説明会及び研修会》

・第1回令和元年8月21日(水) 15:00～17:00
 ・第2回令和元年8月28日(水) 15:00～17:00
 会場：東大阪市男女共同参画センターイーコラムホール
 市職員の制度説明の後、研修会を実施。

テーマ：『喜ばれる住宅改修をめざして』
 第1部「スムーズな手続き、適切な計画」

講師：8/21 曾我部千鶴美、
 8/28 春岡須磨子

第2部「アセスメントから動作検証」

講師：8/21.28 山田隆人

参加者 8/21：151社 8/28：62社



《令和元年東大阪市介護保険福祉用具住宅改修介護支援専門員研修会》

令和元年9月25日(水) 14:00～16:00
 会場：東大阪市庁舎 18階大会議室

テーマ「住環境整備とケアマネジメント」

講師：清水麗子
 三浦浩史(株/シャカリハ)

東大阪市からの依頼研修会で、初めて当会外部の講師とコラボしての研修会を実施。
 参加者：98人



《令和元年寝屋川市介護保険住宅改修給付券方式施工登録事業所研修会及び介護支援専門員研修会》

令和元年8月26日(月)
 ①施工事業所/第1回 10:00～11:30
 ②介護支援専門員/13:00～14:30
 ③施工事業所/第2回 15:00～16:30
 会場：寝屋川市立保健福祉センター5階
 会議室1・2
 1日の中で3研修会を実施。

施工事業所研修会
 テーマ：「申請書類の注意点/理由書の作成」
 講師：清水麗子

介護支援専門員研修会
 テーマ「施工業者とのコミュニケーション
 施工計画書を見るポイント」
 講師：寺岡春恵

参加者：①57社
 ②22人
 ③40社



ふくてっくのつどい

「幼稚園木工活動」

10月30日(水) 毎年お世話になる羽曳野市立幼稚園での親子木工が今年も開催されました。前日の雨から一転して晴天に恵まれ、園児19名のうち半数が3歳児という、ふくてっくの木工活動では最年少対象の活動となりました。

当日のプログラムは、園児のダンスお披露目のあと、園児たちを4グループに分け木工&工具体験のスタートです。のこぎり、かなづちの工具体験と並行して、幼稚園各部屋のネームプレート作成に取り組んでいきます。最初はのこぎりの使い方も判らず、危ない場面も見られましたが、使い方をゆっくり教えて体験することで、細丸太を何度も楽しそうに切る園児の笑顔は、纯粹そのものです。ネームプレート作りは、2家族が1プレートを担当する形で個性あるオリジナルプレートが完成し、後日しっかり幼稚園各室に設置され、記念になるものになりました。



ネームプレート完成!!



はじめてののこぎり体験

「病院木工活動」

11月14日(木) 大阪市都島区の大阪市立総合医療センター院内学級での木工授業が今年も実現しました。毎年実施している事から学級先生からは特に要望も無く、ふくてっくにお任せの活動(工作授業)です。今年の一つの教室に小学生6名、中学生7名の13人生徒が集まり(その他、病室1名、別室1名)、ふくてっくが8名、先生方が6名と人口密度の高い状態で授業が始まりました。今どきは教室に出来ない子供たちの為にネット回線をつなぎ病室で同時に工作をする事も可能になっています。

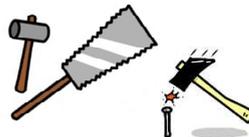
今年は年内の授業ということで季節柄サンタクロースを題材にしたサンプルを用意したことが功を奏し、いつもならどう作れば、何から手をつければ良いか判らない子供達ですが、今回は早くからドンドン取り組むことが出来ました。しかし、本当に良い感じで子ども達は私達を裏切ってくれます。想定した使い方を関係なく、予定しない向きで、予定しない重ね方でどんどん作品を作っていきます。そうやって出来上がった作品は子供たちも満足げで、「部屋に持って行っていい?」と先生におねだりし、持って行けない事に「何故出来ないの?」と看護師を困らせていましたが決まりですので教室で預かってもらい、退院する時に先生から渡してもらうことになりました。今年のクリスマスには、自宅に飾る子供たちが多くいることを願っています。



楽しいクリスマス飾りができました

「地域木工活動」

11月23日(祝) 港区池島で毎年開催される『池島ふれあいまつり』に今年も自由木工で参加しました。毎年この時期の屋外活動は天候に左右されることが多いのですが、今年は大変暑く、朝9時からの準備段階から汗をかきながらバタバタと...ここからの5時間の活動が少し不安になるほどでした。毎年この自由木工を楽しみにしてくれている子ども達も多くなり、10時の開始と同時に材料を選び出す子どもや、「これをする為に来たよ!」と言ってくれる親子もいました。いつもの様にサンプルを並べ、木材料とカラフルなデコレーションパーツを用意して臨みましたが、14時には材料がなくなるほどの盛況ぶりでした。今年も想像を遙かに超えるオリジナル作品が多く、子ども達や親御さんの要望も高度になり、それに対応するふくてっくメンバーのスキルも上がってきました。(小川 忠雄)



恐竜! すごいね!!



ふくてっくの看板ボーイ 有馬さん

『富士登山』

寺岡 春恵

日頃の運動不足解消の為、友人の誘いもあり令和元年の夏、富士山を登ることにしました。難波発 21 時 55 分の夜行バスに乗り富士山駅に向かい、早朝富士山駅に到着。とてもいい天気朝でした。そこからバスで五合目まで向かい五合目まで行くと風がとても強く、肌寒く、何かを予感させる様に空の雲が激しく流れていたのが印象的でした。

富士山山頂を目指すには、大きくは4ルートあり私たちは、初心者向けの吉田ルートでアタックしました。スタートしてしばらくは、歩きながら山の上から見る下界の景色の美しさ感動しながら冗談も言いながら登っておりましたが、6合目あたりから少しずつ疲れやすくなり少し登っては休憩、少し登っては休憩という感じに……。7合目が近くなると足元は岩々となり傾斜もきつくなり、手で岩をつかみながら四つん這いで登っていく状態となり、決して初心者でも登れる山でないことを実感した瞬間です！！！！

何とか、宿泊予定の「東洋館」に到着。木製2段ベッドが並ぶお部屋でベッドスペースだけがプライベート空間になる感じですが、前日が夜行バスだったので体を伸ばして眠れることの喜びでいっぱいでした。食事も簡素なものですが、体をめいっぱい酷使した後のご飯は、とても美味しく満足満足です。山のトイレは、簡易水栓でペーパーは流せないでゴミ箱へ。チョロチョロのお水で手を洗う。歯磨きはブラシで磨き、手持ちのお水でグチュグチュ。お水はとても貴重なのです。

8時には就寝し、早朝2時起床！外は小雨ですが風が台風の様吹き荒れている状態。でも、せつかく来たのだからという思いがあり頂上目指して東洋館を後にしました。その後、雨もきつくなり、それでも雲の間から朝日が出ようとしているのが見えたり隠れたり朝焼けの空が美しく見えたり荒れたり！！山の天気移り変わりの激しさを体感しました。息も切れながら8合目まで行きいったん休憩し再度上り始めて間もなく、下山する人に出会い「今日はやめた方がいい」と言われ登頂を断念することにしました(; ∇ ;)

最近、ニュースでも富士山での滑落事故、落石事故による死亡の話をよく聞きますが、やはり日本一高い山！厳しいです！でも、月日が経つとやっぱり再トライしたくなりますね～



五合目



渋滞登山

会員コラム

『部屋と福祉とまんがと私 その1』

松永貴美

部屋と福祉+αの視点から、おすすめのまんがをご紹介します。ご関心の向きのある諸氏は是非ご一読を。作品をご存じの方は是非復習を。

「花井沢町公民館通り」 ヤマシタトモコ著 講談社 あらすじ「わたしたちの町・花井沢町は、あるシェルター技術の開発事故に巻き込まれ、外界から隔離されている。ここは、いずれ滅びることが約束された町。その町で、わたしたちは今日も生きている。」

冒頭、さびれた公民館の前にたたずむ女性が登場します。彼女は花井沢町最後の住民。有機体を通さないシェルターの中で生まれ育ちました。この町が隔離され始めたのは2055年。物語は世代を前後して進みます。

シェルターがひとつあるだけで、格差や混乱や葛藤が生まれます。シェルターの内と外に生まれる差別、隔離が始まる前と後の世代間の価値観の違い、警察や行政が立ち入れないシェルター内で起こる住民自治、限定された環境の中で変わる経済活動、人口が減少する世界での職業観や役割、シェルターを挟んで新居を構える新婚カップルの行く末、変わっていく不動産の価値、シェルター内の住民への支援の在り方、シェルターの内にはまたは外に残した家族への想い、文化の伝承と移り変わりなどなど。小さな町でゆっくりと起こる変化や終焉に向かう様子が丁寧に描かれています。

読みどころはたくさんあります。自分が物語のどこにいるか想像しながら読んでみるとさらに楽しめます。自分が住民ならどう生きていくか。この町をどうすればいいのか等々、それぞれの立場や職域で読んでみてください。また、暗く壮大なテーマながらもあっさりとした画風で、淡々と物語が展開するところも魅力のひとつです。

興味のある方はこちらからどうぞ。試し読みもできます。



「ある日のお客様との会話 十九」

秋岡 安



客：吉本芸人の徳井君が脱税したニュースがあったね。

私：国税局の調査を受けて無申告だったとか加重算税をかけたんだとかのニュースですね。

客：…でもないことやね。

私：報道が事実なら一社会人として失格ですね。最初それを見た時は、もう働きたくない、引退したいからわざと申告せえへんかったんかなと思いましたが。

客：会社作って節税しようとしてたんやろ？

私：そうみたいですね。たとえば、個人事業の利益が一〇〇〇万円あったとします。これに税金がかかるんですが、会社を設立して一〇〇〇万円の給料をもらおうとします。そうすると会社の利益は〇円になりますね。この給料に税金がかかるんですが、給与所得は七八〇万円になり、税金対象額が二二〇万円も安くなるんです。給与所得控除があるからなんです。(給与収入ー給与所得控除) 給与所得一〇〇〇ー二二〇=七八〇万円)

客：そんな仕組みを知っててなんで申告せえへんかったんかな。税理士が悪いん？

私：よく脱税のニュースで社長が税理士に任せていました、私は知らなかったんだと言いつつ謝罪する事がありますよ。税理士が勝手に申告する訳ありません。

社長本人は知っています。

税理士はきちんと指導していますし、ぐるになってやったら、脱税ほう助で資格はく奪され捕まりますよ。

客：追徴金も億超えていたみたいやね。

私：本税以外に罰金的な税金も掛かります。加重算税と言います。加重算税も附帯税の一種です。加重算税は仮装・隠への事実があった場合にかかけられます。本税に三五%または四〇%課せられます。

客：ホンマきちんとした方がええね。

私：そうですね。国民の義務ですからね

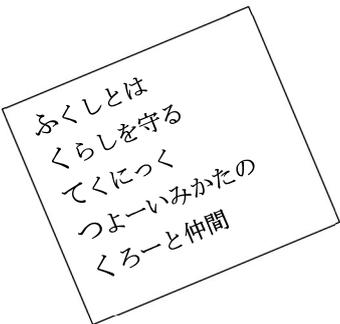
■ R1年7月以降 学習会

- 7月「富田林寺内町の説明と見学」
講師：中野氏 ボランティアガイド
- 8月 総会（学習会なし）
- 9月「コピーライターの仕事」
講師：森島 裕美子氏
企画編集事務所 サヴァ
企画編集者・コピーライター
- 10月「施設見学 エイブリー製作所」
- 11月「手すりについて考える会のこと
～当事者の声から考える～」
講師：中野理佳氏
障害者自立支援センター
作業療法士 相談員
西平喜代美氏 三原ひろみ氏
山田智明氏 鈴木千春氏
手すりについて考える会
- 12月「OSAKA防災タイムアタック！」
講師：清水 麗子会員



■ R2年 定例会・学習会予定

- 1月11日（土）13：30～17：00頃
会 場：大阪市立社会福祉センター
親睦会（学習会なし）
- 2月1日（土）13：30～17：00頃
会 場：大阪市立社会福祉センター
学習会：テーマ未定



ことば・コトバ

【 生活防災 】

「生活防災」というのは京都大学の研究機関「京都大学防災研究所」矢守克也教授が提唱している考え方です。日常生活から切り離さずに、普段の暮らしでしていることの中に、防災や減災のための取り組みを組み入れてしまおうという試みです。

たとえば、部屋の中を整理整頓、これも立派な生活防災です。重い物を上の方に置かない、床の上に余分な物を置かない、この日常生活がスムーズに避難でき怪我をしないための防災対策ではないでしょうか。

（清水 麗子）

◆ 外部連携 ◆

- ・七月十七日
令和元年度第一回評価機関連絡会参加
- ・十月三十一日
ハイテクセミナー
「災害に強い街づくり」に参加
- ・十一月十六日
大阪精神医療人権センター
設立三十四周年記念シンポジウム参加
- ・十一月二十三日
第十回ポジティブ生活文化交流会参加
- ・十一月三十日
評価機関更新時研修検討会議参加



…事務局より…

- ★ 理事会・総会 開催状況
・令和元年八月三日
理事会
- ・令和元年八月三日
総会
- ★ 事務所移転
五階へ移転しました
【新住所】
大阪市住之江区南港北二丁目一〇
A T C ・ I T M 棟 五階 J 五十四



NPO 法人ふくてっくとは・・・

ふくてっくには、建築・医療・福祉分野の有資格その他、多岐に亘る専門職が参加しており、お互いの専門領域における見識と誇りを大切にしつつ、相互の研鑽しあう機会を育てています。キーワードは「生活者の視点、当たり前感覚です。」是非あなたも仲間に入って、自らの人生を耕しませんか。一度、定例会（原則：毎月第1土曜日、13:30～）にご参加ください。定例会では、会員の活動報告や講師を招いての学習会等を行っています。正会員以外の方が定例会に参加される場合は、参加費500円です。

*会費：入会金/無料

：年会費/正会員 10,000円、学生会員 3,000円、通信会員 500円

*連絡先：TEL 06-6614-6800

ホームページ <http://fukutech.sakura.ne.jp/>

メールアドレス mail@fukutech.sakura.ne.jp